

# 今月のダイジェスト

## 釜ヶ崎にともしびを

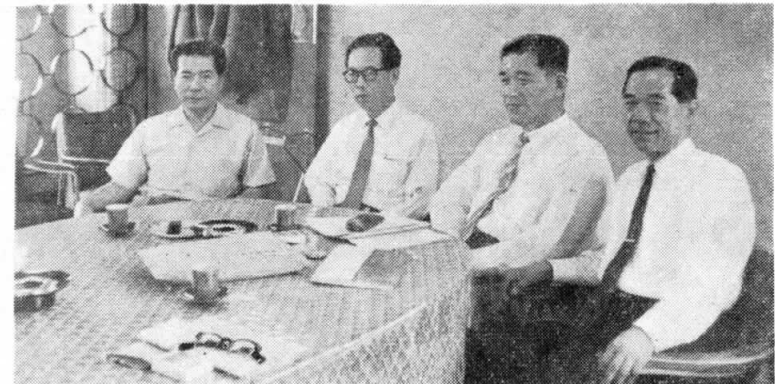
松本幸三郎 (大阪市民生局長)

寒川喜一 (大阪府労働部長)

高寺正一 (大阪府警防犯部長)

きき手 宮田秀太郎 (大阪少年補導協会専務理事)

### ＜鼎談会＞



写真は右手から松本さん、高寺さん、寒川さん、それにきき手の宮田さん。

むし暑い真夏の夜の悪夢のように、釜ヶ崎暴動は起こった。8月1日から三晩つづいた数千人の投石、放火、暴行はまさに世界の耳目を集めるに十分だった。警察力により騒ぎは一応おさまったもののスラム対策を根本的に考えねばならない秋がきている。

釜ヶ崎暴動事件は、新聞テレビ、ラジオ、週刊誌その他マス・コミによって、色々な角度から採上げられています。今後の問題点として、釜ヶ崎の子どもの福祉は、どのようにして守られるべきか、といった点が採り上げられなければならないと思うんです。といって釜ヶ崎の子どもの問題をポツンと現状から切離して考える訳にはいかなし、釜ヶ崎暴動事件の背景になっている諸条件を乱明し、その分析と今後の対策の中に、織込んでもらわなければいけないと思うんです。そういった点から、暴動のキッカケになった交通事故による死亡者の取扱いの問題から、何故あのような暴動に発展したか、といった点からお伺いしたいのですが……

### ▼▼暴動の底流をさぐる

暴動を起こしたのではないかと、言われる点には、反省すべきではなかったか、私個人はそう思っているんです。それに外部的な条件も悪かった。今年の夏は随分暑くて、不快指数も高かった。狭いドヤ住いの人達にとって、その影響は大きいですネ。東京の山谷の例をとっても、夏の夜の出来事だった。それに釜ヶ崎の住民感情といった点で各種の犯罪者群とそれを取巻く一連の人達の警察に対する反感が、相当に根深いものがあった点も否定出来ないと思っ

うんです。  
高寺さんから、釜ヶ崎の住民感情といった言葉が出たのですが、大阪市の福祉行政の頂点におられる松本さんは、その点をどう見ておられますか。  
松本 戦前も、あの地帯はスラム的だったんです。戦後スラム規模が、大きくなった事は、申訳けないと思っっています。戦後区画整理した公有地を不法占拠せられ、バラックが立並び、私有地には簡易旅館が、次々と建ったんですが、背骨の入った民生行政の手が、打込まれなかつた点も、釜ヶ崎住民の欲求不

満を算出させたんじやないかと、思っっているんです。誰も俺達の事は、構ってくれない」といった意識が、彼等を孤立させ、社会との紐帯をたち切らせ、独特のムードを生みだしたのしょうネ。具体的に言えば、その日その日を食うだけの事が足りれば、他人の事は勿論明日の事は考えない。そういった点が彼等を無気力にしている。その無気力と見える裏側に、世間というか、世の中に対する憤りが隠されている。

それが何かのキッカケになって爆発する。これが釜ヶ崎事件の底流だと思っうな。  
——政治や行政の隙間というか、そういった点の足りなさのしわ寄せが、今度の暴動の背景になったんでしょう。だけどネ今、彼等の不平や不満が、電車に投石したり、自動車を焼いたり、民家に火をつけたり、全くの暴動化した事実は動機と無関係に暴走した点は、もっと責められてよいと考えられますヨ。背景と動機と行動に一貫



性を欠く、これは暴動といった性格の反社会行動に共通したものであります。彼等の行動評価だけでなく、検察、裁判の過程に於て、犯罪心理学的な追求と相まって、その真相なり、彼等の心理が克明に浮び上って来れば、対策も恒久的に打つべき事と、早急に施策を打出すべき点を明確にする事が、出来るのじゃないですか。

▼釜ヶ崎分室はカンフル剤

寒川 その点私も同感なんです。暴動が起きてから、いろいろな立場の人が、ああでもない、こうでもない様々の批判なり、意見を発表されますが、現状を分析する事によって、正しい且つ有効な行政が生まれるであろうという事を、確信しているんです。私は労働行政の立場から見ているんですが、釜ヶ崎住人といっても、家族を持って生活の本拠にしている人達と、風来坊のように、何処から来たのか判らない單身者も、大勢いるんです。私はスラム地帯に沈没した気の毒な人は、今度の暴動に直接参加しているものは、少ないと見ています。失うべき何物もない。いわば責任のない立場にある人達が、不和雷同したのが、大部分じゃないかと思うんです。だから警察、検察、裁判の過程で、事件の行動

▼立ちあがるきつかけを

—— 闇手配師の話に集中したようですが、ああいった群衆の集中化を避けること、それはスラムの解消にも通じるんです。大阪の産業構造が人間資源の分析との関係に於てどのようなものか、そういった展望が必要ではないのでしょうか。港湾業界が必要なのは、毎日どの程度必要か。その船舶の出入の見通し、建設業界が、釜ヶ崎に現場人員を依存している現状の分析、大阪の重工業、機械産業の上で必要な人員の算定、或いはここ数年で完成する堺臨港地の完成に必要な労働者の送りこみ等、釜ヶ崎の労働人口の分散といった点は、どうでしょうか。

寒川 私はスラムの問題と直接取組む立場ではございませんが、釜ヶ崎の現地を見ての感じでは、あの状態はよくないです。私は勤労意欲のある人は、職場に直結するようなものにする事、そのためには職場に便利するように住宅を建ててあげる事、更に勤労意欲を醸成すること、そういった事が、緊急且つ最小限度の要望だと思ふ。そういう理念を持っています。あそこ住人は、本質的には非常に気の弱い、何かテコ入れをしなければ、生きて行

ばかりでなく、本質的なものが掘り下げられたら、恒久対策、応急対策の点が、はっきり打ち出される。

—— 職安、分室の構想は、応急対策として、おやりになったんですか。

寒川 まあそうですね。私達も現場を繰返して見て、感じたのですが、浮浪的な立場におる人達が多いんです。そしてその人達が手配師によって、利益をひとりじめにされているんです。だからそういった搾取から解放すること。彼等の生活を考えてキメの細かい行政をやって行きたい。そういった立場から大阪府労働部西成分室を設ける事に、踏切ったんです。勿論御承知のように、職業安定機関の正式ルートに乗せるのには、いろんな条件が必要なんです。そういった条件を満たすことが出来ない現実の前に、とも角緊急的なさななければならぬ問題として、その設立に踏切って、九月一日から実施に踏切った訳です。

—— 思い切った施策をズバリとやられた事は、真実に敬意を払います。

寒川 手配師の存在とその効用論をぶつ人がおりました。彼等は産業の上に、貢献しているんじゃないか。(笑声)

—— 闇タクが大衆の足に便利を与え、輸送行政に尽したとか。闇切符屋が、特急券

けない。立直れないような人が多いと思うんです。その点が問題だと思うんです。松本さんの観察はどうですか。松本 そうだな。大体気が弱いから、落伍するんじゃないですか。だから善良な人が、意外に多い。従ってあの社会に入ると、勇気を出し、更生するんだという気迫に欠けた雰囲気により同化されてしまふ。だから血の通った生活指導が必要だ。

寒川 さっきの話の続きになるんですが、彼等のために簡易宿泊所が是非必要です。私の立場から言って、作業に関連のある事業場の宿舎といった観念のものであって欲しい。そうでないと第二の釜ヶ崎を作られたら困る。そういったアイデアで、目下話が進められているのが港湾荷役関係の住宅建設問題なんです。それも住宅だけでなく共同浴場、簡易食堂、理髪店、健全な娯楽場といった福祉施設も併設出来ればという構想なんです。

松本 日本のスラムの特徴は、高いドヤ代を払っている事実を、無視する訳にはいかない。四畳半位の薄暗い部屋に、親子五、六人が重り合って、日払いで二、三百円も宿銭をとられている。月勘定にすれば、家賃が七、八千円にもなっている。敷金や、まとまった金がないため、みすみす

や寝台券を、お得意様に高く売りつけ、大衆に奉仕しているんだとかの立論の根拠がよく似ているナ(笑声)

高寺 現実にあるということ、何故そういうのがあるかということ、その点はもっと考える必要があるのじゃないか。手配師が活動するには、業界関係者の方で、人を要求しているからで、その需給関係のバランスの上に立っていたのだ。

寒川 作業場の現場から、安定所の窓を通さず、手軽にやられていたんです。そういった点私達の分室も手軽にやれる。手軽に利用して貰えるもの。そういったスタイルのものにして行きたいと思っているんです。

—— つまり公平手配所ですネ(笑声)

松本 私は今度の事件で感じたんですが、行政に筋を通すという事の必要性です。それも単に筋を通すという事だけでなく、肉付けが必要なんだ。闇手配師の存在は、公的機関で扱って貰えないものが、止むを得ず手配師の世話になる。だから公的な機関が、血の通った行政をやれば、手配師の存在は、影が薄くなる。こういった事は、民生の上でも、考えないといけないと思っているんです。

高いと知りながら、そうしたドヤ住いをする。職業にしても、夜泣きそば、中華そばにしても、手押し車と材料を貸してもらって、生活をしている人達は、結局損料を払って、生活するのにぎりぎりだ。その世界から抜け切ることが容易でない。そういった暗たんたる生活の明け暮れをしている訳だが、その点を真げんに考えてやる必要があります。

—— 搾取が余りひどすぎると思いますが。スラムの住人を食物にしちゃいけない。肩拾いにしても、夜泣き屋台にしても、協同組合を作っても、搾取がなく、自分達の生活が向上できるよう、いろいろな困難な条件や、抵抗もあるだろう、立上があるキッカケの指導が必要ではないのだろうか、と思つてます。勿論個々の人達に導する生活指導、つまり、貯蓄をしろとか、生活目標を持たせとか、いろいろ身近な問題の指導も必要だろうけども、集団指導の目標とその具体的な方向づけの指導、そういった点が必要じゃないですか。

▼スラムをつぶせ

寒川 あの地区は空地がない。私の方で分室を造るにしても、市の緑地を潰してもらったんです。だから仮に地区のドヤを買

収する計画を立てても、あの辺の宿屋はおしほりを出すんじゃないし、風呂をたくんじやなく、お茶をサービスしなくても、結構いい商売になるから、立退きという事は難かしい。スラム対策についていろいろ結構な案が出されても、空地もないし、机上の空論に終るおそれがあるんですよ。今度の場合府・市が協力し、国も相当テコ入れをして貰わんと、あの地域の改善は難かしい。

——その点ですネ。既成の理念で、スラムを解消するなんて、ナンセンスでしょうネ。スラムの中で、空地不足のため施設をつくることは難かしいでしょうけれど、本来スラムって、空地のないゴチャゴチャしたところなんで、その周辺であっても、よい施設をつくってあげば、解消する階段を昇っていけるでしょう。

寒川 観念的には、大変結構なんだが。最近の住民感情から言って、受け入れ側の地域の拒否の抵抗が出て難かしい。

松本 私はネ。今度は本気でやるという覚悟です。今まで難かしいという事で、あの地域は放つとかれたのです。うかうか手をつけて、怪我でもしたらつまらん、という考え方で、何時までも放つとかれたら、地域の人達は気の毒です。昨年でしたが、

分に設けることとか、児童だけの小図書館なんかは、ちょっとした小公園に設けてやれば、随分喜ばれると思うんですが……。  
高寺 私も子供の夢を、育ててもらいたいと思うなア。特に風紀とか、いろいろ問題の多いスラムには、大人の世界と隔絶した、子供だけの世界があつてよい。

松本 今度建てる愛隣館は、相当大きなもので、大人専用で内職に来る人のために託児部屋は設けますが、市民館と現在の愛隣館を、青少年や子供の専用で提供したい、と言う腹案です。そしたら不就学児や長期欠席児のお世話をしたり、下校後はゲームをしたりして、或いは図書も置く部屋を用意したり、いろいろ考えたいと思っています。

——素晴らしい案です。是非実現にお骨折り下さい。特に府警本部でも、釜ヶ崎を中心に防犯コーナを設置し、青少年の指導・育成に努力されるという事を承ったのですが……。

高寺 あれはネ。補導センター勤務の優秀な婦人警官も引抜いて釜ヶ崎専属の青少年指導の仕事をやって貰いたいと思っています。まあ最初三組位を考えているんです。釜ヶ崎の少年問題の中心は、何と云っても不就学児と長欠児童等の問題なん

国連の人達が、スラム視察に見えられたんですが、釜ヶ崎を見て何故国家なり自治体のが、スラムを潰して、立派な建物を建てんのか、と云って、余りのひどさに、びっくりにしております。あの当時国家も補助金を出してまで、スラムを改善する意向は積極的でないし、市としても、若干のスラム対策のために、スラム対策主幹を置き、愛隣館の建設などを、やっていたけれど、大規模のものでなかった。今度は暴動事件が契機になったので、不法占拠のバラックを撤去させると共に、鉄筋の五階ビルを建て、困っている人達を収容したい。勿論いっぺんにそんな事は出来ないが、今年、来年という具合に、十年かかって、スラム地帯の解消のために、努力したい。釜ヶ崎の直ぐ北側にある馬淵町に、鉄筋の住宅を建てているけれど、今度は別の地点に五階建のビルを建てる計画をしています。

高寺 ああいった地域は、食費がべらぼうに安い。大衆性といった点を考慮にしないと、彼等の生活感情から遊離すると、拙い結果になりかねない。

——娯楽もそうですネ。競輪のノミ行為が、大っぴらに開設せられ、不健康な遊び場が多い。無気力な彼等がギャンブルの世界に溺れる気持は判るが、も……と健康なそ

です。そうした子どもの置かれている現状は、親の貧困、無理解と言った親自身の責任に帰属する点が、大きなウエイトを占めているんです。そういう点から、両親教育から始めなければ、問題を解決することが出来ないで、相当長期且つ本腰を入れて、やって見ようと思つてゐるんです。

松本 放任家庭が多い、無知もあるが、両親が働かなければ喰っていけないから止むを得ず放つとらかしとく、というのも多いそうですネ。学籍のないものもありますし、そういうものは学籍をこしらえてやる。智能のおくれた子もいるし、学校行政と学校教育の接点に於て、この問題をどう捉え解決するか、そういった点、教育委員会とも相談してゐるんですが、中々難かしい点がありましてネ。

——戦後諸外国では、スラム対策は、相当進んでいるようですが……。

寒川 かつてニューヨークのスラムを、愚師の岩崎さんと見ましたが、日本とケタ違いなんです。スラムのアパートといつても、日本の現在の公団住宅なみだから、オドロキだ。僕はネ、人間というのは、ちゃんと恰好をつけたら、礼節を知るといふか、振舞いが変わってくると思うナ。  
松本 僕もアメリカで黒人街のスラムを

して楽しいものを提供することですネ。大衆的な娯楽……将棋であっても、碁会所であっても、テレビを見る集会所であっても結構だと思つてゐる。

松本 今計画している第二愛隣館の四階に、そうした施設を設けたい。雨が降って仕事のない人は、そこに来て碁でも、将棋でもしてもらおう。時には映画のサービスもする。そういう構想をもっている。

▼子どもたちをどうする

——一応あの地域の大人の福祉が安定すれば、子どもの問題も併行して考えてやっていた方がいいと思つてゐる。日本の産業経済が発展すればするほど、共働きの家庭が増えてくると思つてゐる。従つて保育所とか、託児所なんかは、より重要になってくると思つてゐるのです。子どもを預ける階層だつて、質的に変わってくると思つてゐる。だとすれば公立幼稚園なんてものは、その経営を民間に移譲して、市立幼稚園てなもの、将来託児所、保育所に、質的転換をせざるを得ないような、時代の流れが来るのと違つてどうか。スラム内は下層階級の人達が多く住んでいる地区に、絶対的に必要な託児所や、保育所なんですネ。釜ヶ崎に市立のそういうものを、十

見たが、三十何階建てというデッカイのがあつたが、内部での生活指導が、も一つというところらしい。これは個人に干渉しないという国民性の相違もあるが……。

欧州でもコペンハーゲンのスラムを見て連れて行って貰つたが、現場に着いてもスラムが判らない。鉄筋の立派な洋館が並んでいたりしてゐるんだ。パリのモンマルトルの付近に、ちょっと浪速区の日東町のような感じの街がありました。

——スラムって、日本の役所は建設省と厚生省あたりが、もっと本腰を入れなきゃ、よくならない。景気の静かな拡大は結構だが、スラム地帯の拡大なんて、放つとかれちゃ困ります。でも今度は政府も本腰を入れるように、新聞にも出ていましたし、皆さんの御力添で、明るい釜ヶ崎の街づくりが出来ますよう、御健闘を祈つていきます。じゃこの辺で……。



(水) 大阪府・市・近畿児童福祉施設野球連盟・朝日新聞大阪厚生文化事業団・その他近畿各府県主催 第十回近畿児童福祉施設野球大会二府四県三市より各代表チーム参加(大阪府代表羽曳野学園優勝) (於真田山公園野球場)  
 ☆八月三十一日(木) 弘済院収容施設見 四〇名アメリカ軍艦セントポール号見学(於大坂港)

事件・ニュース

☆八月二日(水) \*西成区釜ヶ崎地帯で群衆による暴動。(読売その他各紙)  
 ☆八月五日(土) 少年のバーどめ、法に抜け穴あり、起訴されぬ業者(読売)  
 ☆八月七日(月) 琵琶湖でモーターボートが暴走、女子中学生が重傷(毎日)  
 ☆八月七日(月) 釜ヶ崎の子たちは、釜ヶ崎暴動をどうみたか(大阪日日)  
 ☆八月十日(木) 西成問題、府・市連絡協議会が浄化(基本方針、住・食・医など)(毎日)

☆八月十一日(金) 保護観察中の少年を収容する厚生施設、泉佐野市の関西自動車整備工業所竣工(大阪日日)  
 ☆八月十一日(金) 良家の子弟で窃盗団、芦屋の中学生一八人(毎日)  
 ☆八月十二日(土) 釜ヶ崎の子を救おうと東京の学生が来阪(産経)  
 ☆八月十四日(月) 琵琶湖で青年が試運転中のモーターボートにはねられ死ぬ(読売)  
 ☆八月十四日(月) 坊や、フタのあいていたマンホールに落ちて死ぬ、西宮で(読売)  
 ☆八月十五日(火) 愛児二人を殺し自殺を図る。カケ好きの夫が借金(毎日)  
 ☆八月十七日(木) 高石の青少年指導員協議会が西成の子を交歓野球に招待(産経)  
 ☆八月十七日(木) 小松川女高生殺しの少年に死刑確定。最高裁で(毎日)  
 ☆八月十八日(金) ソ連見本市のレーニン像を襲おうとした右翼少女(新大阪)  
 ☆八月十九日(土) 厚生省、低所得層に重点、生活保護を大

中に引きあげ。向う三〜四カ年で(読売)  
 ☆八月二十日(日) 府警、今年度の上半期の犯罪白書を発表。殺人、放火ふえる(大阪日日)  
 ☆八月二十日(日) きいた小児マヒ生ワクの威力。患者ぐつと減る(産経)  
 ☆八月二十一日(月) 文部省、来年から全国にこども文化センター。不良化防止などに寄与(読売)  
 ☆八月二十三日(水) おとな顔負け家出の単車窃盗団、新品ばかり二百台(新関西)  
 ☆八月二十五日(金) スラムの手配師一掃へ、大阪府労働部分室を釜ヶ崎に設置(朝日)  
 ☆八月二十五日(金) スラム地区に総合対策を、関係各省が初の連絡協議会(朝日)  
 ☆八月二十六日(土) 中学生の犯罪が目立って増加、最近の少年犯罪(大阪日日)  
 ☆八月二十六日(土) 大日本愛国党総裁赤尾敏に一年六カ月の求刑。中央公論社脅迫などで(朝日)  
 ☆八月二十六日(土) 釜ヶ崎の

労働者にアパルト 大阪港の荷役業者が計画(朝日)  
 ☆八月二十九日(火) 今年の夏休み、近畿の小中学生水死八八人(読売)  
 ☆八月三十日(水) 中学生が教室で自殺、泉大津で(読売)  
 ☆八月三十一日(木) 「大阪府労働部西成分室」開設をひかえ暴力手配師を逮捕(読売)  
 \*西成の釜ヶ崎暴動事件については、各紙とも一部一日付夕刊紙よりとりあげ、大々的に報道。特に五日までは各紙とも三夜にわたる事件の報道、解説につとめ、この間についてはいずれも本欄への記載は省略した。

特集・解説もの

☆八月十日(木) 戦後教育の反省。天野貞祐(読売・論壇)  
 ☆八月十三日(日) 学力テストと父兄の立場(毎月・社説)  
 ☆八月十六日(水) 西成事件の反省(毎日・投書)  
 ☆八月二十一日(月) 西成事件の再反省(毎日・投書)  
 ☆八月二十二日(火) 辺地の福祉を引きあげよ(毎日・社説)  
 ☆八月二十五日(金) なんのための就職協定か(毎日・社説)

②(毎日)  
 ☆八月十日(木) 戦後教育の反省(毎日)  
 ☆八月十三日(日) 学力テストと父兄の立場(毎日)  
 ☆八月十六日(水) 西成事件の反省(毎日)  
 ☆八月二十一日(月) 西成事件の再反省(毎日)  
 ☆八月二十二日(火) 辺地の福祉を引きあげよ(毎日)  
 ☆八月二十五日(金) なんのための就職協定か(毎日)  
 ☆八月二十八日(月) 三十一日(木) 釜ヶ崎にあすを①②④(朝日・関西は考える第八部)  
 ☆八月二十八日(月) 三十一日(木) 生れかわる釜ヶ崎①④(産経)  
 ☆八月二十八日(月) 三十日(水) 西成対策に注文する(上・中・下)(毎日)  
 ☆八月二十九日(火) どうする野放し精神病者(産経)

社説・評論・意見

☆八月五日(土) 納得いかぬ目的、全国中学校一斉学力調査への疑問。関大教授鈴木祥蔵(毎日)  
 ☆八月七日(月) 教育の底辺を引きあげよう(朝日・社説)  
 ☆八月九日(水) 「残酷」をみのがすな。福祉国家形成のために。同志社大助教小倉翼

☆八月七日(月) 国際学生会談(読売・青年)  
 ☆八月七日(月) 働く十九才の生活と意見(毎日)  
 ☆八月七日(月) 釜ヶ崎住民は訴える(読売)  
 ☆八月九日(水) 釜ヶ崎暴動の病根(読売・ニュースパト)  
 ☆八月十三日(日) 医療制度のしくみ(産経・婦人)  
 ☆八月十日(木) あれから半月の西成(毎日)  
 ☆八月十八日(金) 金のかから

特別補導は中止  
 ☆八月は西成釜ヶ崎事件のため

特別補導

よい品を どこよりも 買いよい店……



日曜定休 マツザカヤ 大阪日本橋 電63-1171

株式会社 大阪相互銀行

取締役社長 小林 泰造

大阪市西区靱1丁目64番地

ごあいさつ

有馬 朝子

大阪少年輔導協会設立以来、『少年輔導』の編集をさせて頂いたのですが、このたび家庭の事情で大阪を離れることになり、したがって少年輔導編集長を辞任することになりました。

思えば長い間皆様の御厚情をいただきましてありがとうございます。『少年輔導』が皆様の限らない御協力のもとに、日に月に成長してゆくことを思うとき、哀惜にたえない気持ちでお別れのことばをのべるものでございます。

かえりみまずと、『少年輔導』は五年の有余の歳月になりました。これは長くもあり、短かくもあったような気持ちです。大阪の青少年問題に因す

るあらゆる組織の方々には、あたたかく受け入れていただき、またはげましと御指導をいただきつつ、幼い足どりで歩いてきた仕事の歴史と皆様の思い出がいまなお臉のうちにつよくやきつづけております。万感胸にあふれて、いうべき言葉もみつからない程の離愁にひかれるものでございますが、今後共、絶大なる御協力のもとに『少年輔導』をお育て下さいますように皆様に伏しておねがい申しあげます。

なお、私は東京で、内閣調査室の仕事をさせて頂いたきますので、今後共よろしく御指導の程おねがい申しあげます。

昭和三十六年九月

『少年輔導』編集長を

離れる日に

# 「編」佳木「後」記

☆関係当局から発表された、青少年非行の実態は、質的に悪化し、量的に拡大していることが指摘されている。

その数字は行政・法務・裁判等の関係機関に於て取扱った人員や、行為数を示したものであって、非行が当局に発見されず、そのまま、市井のなかに沈黙、埋没している数字は含まれていない。

従って発表されている非行統計数にその暗数を加えた数字が、非行の実態数字といえるだろう。

☆そういつた推測を加えると、青少年非行の問題は、世間が考えている以上に深刻な問題である。関係機関だけでなく、社会全体が、もっと深い関心を持たざるを得ない問題であるといえる。青少年非行化への道を、具体的にどう遮断するか、そういつた立場からこの問題を捕捉しようとしたのが、本号のネライである。

専門家だけでなく、多くの家庭人も是非爽涼の夜など、味読して戴ければ幸いです。

☆編集長だった有馬朝子さんが、このほど内閣調査室に勤務するため退職されました。後任は当分の間、発行人が兼務することになりましたが、皆様方の vari ない御支援、御協力をお願い申し上げます。

購読者の方へ

本誌購読は原則として前金にておねがいます。

六カ月分 三六〇円(千無料)  
一年分 七二〇円(千無料)

## 少年輔導 十月号

一部 六〇円  
(第六卷)

昭和三十六年九月二十日印刷  
昭和三十六年十月一日発行

発行所 社団 大阪少年輔導協会

大阪市天王寺区六万休町換地  
大塚町ツク四〇ノ一三

電話(分) 四一八〇番  
振替口座大阪二五八三四

編集発行人 宮田 秀太郎

印刷所 東洋紙業株式会社